

廣川教授

僕のゼミでは『万葉集』を教材として扱っていますが、皆が社会に出てから役に立つ「新しい発想や企画を生み出す力」を養成したいと思っているんだ。



ゼミ生 ゆっか

それは具体的には？

廣川教授

現代アーティストの絢香の「三日月」という曲がありますが、知っているかな。この曲の中で女性は彼氏と離れ離れになっています。その女性は西の空の月を見て、「離れたところにいる彼氏もきっとこの月を見ているはず。月をとおして私たちの心はつながっているの!」と思うわけです。実は、この女性の恋心は『万葉集』にも同じように表現されているんです! 現代歌詞と『万葉集』。1300年の時を超えて、人を愛する思いを同じように表現しているのって、なんだかロマンチックだね。ここでは人の愛の「つながり」が表現されているけれど、「つながり」と言えば、君のゼミの発表も「つながり」がテーマだったね。

ゼミ生 ゆっか

はい。万葉集の時代の「紐」に込められている思いについてゼミで発表しました。家に残る妻が旅に出る夫の安全を祈って、紐をぎゅっと結ぶのです。その結び目に、妻の思いが込められていて、旅の途中で夫は紐の結び目を見て、妻との「つながり」を確認できるのです。この思い、現代ファッションの広告のキャッチコピーに活かしたいなあ。

廣川教授

うん。とってもおもしろいね。

「つながり」と言えば、ちーちゃんの発表もお祖母さんとの「つながり」を確認できる内容だったね。

ゼミ生 ちーちゃん

はい。私の祖母は対馬に住んでいます。

博多から対馬までは147kmもありますが、対馬から韓国釜山まではたったの50kmしかないんです。対馬から釜山の花火大会が見えるほどなんですよ。その対馬は、『万葉集』の中で、朝鮮半島にあった新羅国に行く際に経由する土地でした。私は、ゼミで新羅国に赴く人たちの歌を発表しました。祖母の住んでいる対馬について学ぶ良い機会となり、離れたところに暮らす祖母との「つながり」が一層深まりました。この知識を観光ピーアールの仕事にも活かしたいなあ。と思っています。

廣川教授

うん、この発想も良いねえ。二人ともゼミの発表を通じて、自らの感性を磨いて新しい発想や企画を生み出す力を身に付けているようだね。

ゼミ生 ゆっか・ちーちゃん

有難うございます!卒業論文、そして未来に向けて、頑張ります!



私たちが生きている世界を理解するため、人間の知識や文化の根源を探求する学問を人文学 (Humanities) と言います。文学部では5つの学科で、言葉や文学、社会や歴史、心や芸術など、人文学の諸分野を学びます。文学部の学びは、あなたと世界をつないでいきます。ともに学びましょう!

文学部

日本語日本文学科

語彙や文法、方言、外国人への日本語教育などさまざまな角度から「日本語」を学び、古代から近現代までの「日本文学」の豊かさを味わい研究します。

英語英米文学科

英語を用いたコミュニケーションを高めるとともに、英語の背景にある文化や歴史、またリアルタイムに進行する国際問題へも視野を広げて学びます。

社会学科

身近な日常生活から国際社会に至るまで、社会を読み解く理論を学び、調査分析の方法など社会学の基盤となる社会調査の実践力も養います。

人間科学科

“癒し”の視点から「心」を研究する心理臨床領域と、「創造」の視点から「表現」を理解する人間表現領域の2つが連動融合した学びが特色です。

歴史文化学科

日本からアジアへ、そして世界へ。遥か古代から現代まで。時空を超え、関心に応じ、歴史学と人文地理学・民俗学の諸領域を追求します。